

一 告 告



吉藤 穰

よしふじ ゆたか
金沢工業大学大学院工学研究科
高信頼ものづくり専攻
博士前期課程二年
新潟県立長岡向陵高等学校出身

夢考房で複合材料にふれ、 その偶然が未来への必然に。

ふと立ち止まり振り返ると、ある偶然が実は必然と思えることがある。吉藤さんの場合、入学して間もなく所属した課外活動の夢考房ソーラーカープロジェクトが、それかもしれない。

「特別な才能も熱中して学ばない目標も、特にならない高校生でした」。担当した車体班で、ボディの剛性と軽量化を図る炭素繊維強化プ

ラスチック(CFRP)に出合った。卒業研究は3Dプリンタを使った超小型電動バイクの製作だったが、大学院では夢考房の経験を活かし、次世代の複合材料を手がけたいと考えた。ちょうど、革新複合材料研究開発センター(ICC)の鶴澤 潔所長から研究室に誘われる幸運が重なった。

KITの附置研究所であるICC

Cは、特定の分野で他国の追従を許さないイノベーションを起こす研究拠点として、国家戦略に基づき整備された。対象とするのは、炭素繊維などの強化繊維と、それを固める樹脂を複合化した構造材料。ICCでは、その研究と製品開発、教育に異業種、異分野の企業が多数参画しており、鶴澤所長は「ひとつ屋根の下に産官学が集い、壁のないオープンなラボエリアから大きな相乗効果が生まれています」と特徴を語る。

吉藤さんも、この恩恵を受ける。ICCでプロジェクトに加わる特定国立研究開発法人「産総研」のリサーチアシスタント(技術研修生)の名刺を持ち、「第一線で活躍中の技術者や研究者から、複合材料に関する最先端の知識や製造、評価、分析に関する技術を学べる最高の環境です」と貪欲に目を輝く。自身の研究では、薄板状にスライズして潤滑剤を含ませたスギ

材を、金型で自由な形にプレスする「木質流動成形」に取り組む。これが縁で友人からCFRPの学生ブリッジコンテストに誘われ、KITチームの一員となった。ブリッジの構造設計で強度計算や解析を担当し、日本代表として出場した今年五月のアメリカ大会で優勝を飾った。国内の大学では、東京大学に続く二校目の快挙である。

SUBARUから内定をもらい、航空宇宙カンパニー部門に配属の予定という。実用化段階に入った「空飛ぶクルマ」も、車体内部にコスト面で有利な木質流動成形の部品が採用される可能性が膨らむ。やはり、彼の六年弱のすべてが必然へと帰結している。「不安はあっても、楽しそうな未来が見えています」。もはや入学前とは別人の吉藤さんが目の前にいる。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七七一
電話番号(〇七六)二四八二〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之